

小田原史談

第283号
発行所 小田原史談会

白鳥の贈り物(上)

— 北条氏綱から近衛家への婚礼祝い —

深野 彰

はじめに

戦国時代の小田原は、伊勢氏(北条氏)五代が関東を治めた中心都市であった。中でも第2代当主の伊勢氏綱は、父・伊勢宗瑞(北条早雲)の嫡男で、父の関東進出に従って薰陶を受け、「文を左にし、武を右にする」心得を忠実に守った。

氏綱は拠点として小田原城を築城し、姓を伊勢氏から北条氏と替えて、父・宗瑞の志を受け継ぎ北条家の基盤を固めた。氏綱は、長享元年(一四八七)父宗瑞が三二歳のときに生まれた。母は宗瑞の正室で、室町幕府奉公衆小笠原政清の娘・南陽院殿であった。氏綱の幼名は「伊豆千代丸」で、元服後は父と同じ「新九郎」と称した。

氏綱が生まれた年に、宗瑞は今川家の家督争いで京より出張って小鹿範満を討ち、宗瑞の姉・北川殿の嫡子龍王丸(今川氏親)を今川家当主とした。この功により、伊勢宗瑞は興国寺城の主となった。

静岡県沼津市青野にある興国寺城跡を訪れたことがある。興国寺城跡には、天守台や裏側の大空堀などが見学できるように路が造られていた。県道22号線から高台に上ると、三の丸、二の丸、本丸が段々状になっている(写真1)。崖下の木立の中には穂見神社が祀られている。神社裏の崖の上に天守台があった。天守台に立って南方を見ると、眼下に駿河湾に沿う平野が見渡せ、左手に伊豆半島の大瀬崎が



(写真1)「興国寺城跡」全景。木立の奥に天守台



(写真2) 興国寺城から駿河湾・伊豆が見える

遠望できる(写真2)。この城は駿河国の東外れに位置して、東は伊豆国であり箱根山がある。興国寺城は駿河国東部の境界を

二百八十三号(令和七年十月号)

目次

白鳥の贈り物(上)

北条氏綱から近衛家への婚礼祝い

深野 彰……………1

小田原史談会 春の古典講座

『源氏物語』から『平家物語』へ

— おんなたちのものがたり —

阿部 美知代……………9

北と南をつなぐ自然のみち

東と西をつなぐ歴史のみち

— 石を介した東西・南北の交流 —

南足柄ジオガイドの会

西川 尚之……………16

講演録

個人と社会を豊かに繋ぐ(下)

— 新しいコミュニティを求めて —

鷺山 恭彦

大日本報徳社社長

元東京学芸大学学長……………22

『相模国飯泉志稿』(抄)(上)

飯泉山定額僧信明実応 輯

山口 隆夫……………31

令和八年 初詣のお誘い

武蔵御嶽神社と吉川英治記念館を巡る

……………30

片岡日記発刊・展示会の様子……………35

新会員紹介……………8

会員募集……………8

賛助団体・落穂集……………36